

小學一年生教育を通しての所感

東京女子高等師範學校訓導

弘 田 芳 弘

はじめに

此の小篇述は小學校側から幼稚園に對する要望でもなければ、保育についての感想でもない。尙更ら小學校の代表意見で決してない事をおこはりせねばならない。小學校の普通の教員、極く平凡な存在、それが私の實在であるから。

けれども、私は教育に生きる歡喜を感じ、いつも生命の躍動に突入して行つては教育といふ仕事の崇高な事に、畏敬してゐる。強ひて言へば私の擔任する小學校一年生、それは色々の幼稚園より選抜されて入學して來た三十三名の兒童達であるが、私はその子供達の教育に、唯々全身全靈を打ち込んでゐる。更に又世にありまあらゆる教育者に決して劣らないと信する熱烈と眞摯とを武器にして、懸命に勵んで居るに信じてゐるのである。それ故實に平凡な存

在ではあるが一面その有りふれた經驗が、一般の小學校の意向を語り、普通なるが故に世の多くの幼稚園に向かつて希望するであらう色々な参考を含んでゐるを考へる次第である。

私の擔任する子供達は男兒十八名、女兒十五名であるが、その出身を調べるに、唯一名を除く外の子供は全部半年乃至二ヶ年間の幼稚園保育に、惠まれた幼児期を送つた兒等である。その出身幼稚園は實に十園に互つてゐるのでいきほひ種々の代表的幼稚園を網羅してゐると思ふ。この兒等の一ヶ年間の教育を反省して、特に氣のついた點を申し述べる事としよう。

一、性格の圓滿といふこと

幼稚園保育が性格の陶冶に微温的であつてはならないと

思ふ。否むしろ積極的であつたが故に、最初の小學校教育にこれ程の幸福ミ効果が齎らされるかについて感謝さへして居るのである。

兒等は皆天真爛漫であつてほしい。嬉々として遊び、闊達に行動し、快活に何でも先生に向かつて語り得る子供に育て、行く事は小學校幼稚園共何れに於いても大眼目である。しかし小學校では尙これ以上子供らしいさいふ性格の上に國家的な性格、皇民としての各方面の性格の基礎を充分に躰けて置くさいふ大方針を掲げて銳意努力せねばならないのである。幼稚園に於いて明るい子供らしい子供に育てられる事に積極的であつてほしい内容として次の様な實例を擧げる事が出来ると思ふ。

(イ) 恥づかしがりの泣蟲

Ⅰ兒。入學當時よくめそ／＼泣いた男兒である。しかもそれに恥づかしがりさきてゐる。讀本をよませようミ指名しても、或は一寸話しかけてもすぐ泣顔になる。機嫌をさつて聞いてみても一語も發しない、じつと下を向いて目に涙をためてゐる。實に苦心した。機會をさらへて他の子供達と同時に同じ事を答へさせたり、共に讀本を朗讀させたり、更にこの兒の心の中にくひ入つて共に遊び互に戯れる様にした。それが今日一年後では、二千人を容する大講堂の舞臺に立つて學藝會もやれば、教室内でぎん／＼發表

もする。室外の運動ではいつもリーダー格である。さいふ様になつた。

(ロ) 寡言沈黙の兒

Ⅱ兒。Ⅰ兒等。これは前者の表型的なのに對して内向的な性格であらうか。女兒に多い。問を發しても答へない。色々聞いてもせい／＼頷づいて肯定するか、頭を振つて否定を示す程度。教科以上に種々苦心の結果今では随分よく發表する様になり色々語り得る様になつたと思ふが、それでも時々思はしくない。

(ニ) 附和雷同性

Ⅲ兒。誰かが奇聲を發すれば直ちに模ね、變つた事をすればすかさず試みる。御不淨に立つ者があれば必ず後を追ひ、ふざければその通りしてみせる。前二者に對して反對な明朗に過ぎた弊であらう。唯々Ⅲ兒に限らず、男兒一般の傾向であるが、これはむしろこの時代の子供の模倣性の特質かも知れないが、私は特に良い事はまねるが悪い事は模倣しないさいふ様に躰けて居るので今では全兒に相當な理解が出来た様である。

(三) 利己的な嫌はれ者

Ⅳ兒。小學校で入學當初先づ強調する事は團體的、協同的な訓練である。皆の迷惑にならない様にする事、みんな遊び共に愉快に運動し、一つしよに勉強する事、皆さん

の爲めになる事をしませう、等である。この團體的訓練は、非常な好成绩で進歩したのであつたが、これは一に保育の効果であるを敬服してゐるのであるが、この中に伍して唯一人、排他的傾向を示したのは一兒であつた。面白い話も随分有るが略しよう。

(ホ) 取り付き難い兒が甘つたれて来る兒

一は小學校入學といふ自覺が子供の程度を超過して、母親等から強制されて、おまなしい子として昔から謂ふお行儀よい子となつた行き過ぎであり、他者は幼稚園そのまゝを小學校に持つて来て、「ね、先生、僕ね。」さしきりにからみついて来るのみならず何でも手を焼かせようとする及び足りない方向である。故に前者はむしろ世の親達を戒めねばならないし、後者は小學校教師自身の反省に待たねばならない。が、何れも小學校に入るに際して現れる事であるからには、責は小學校側にあると言はねばならないであらう。

(ハ) 幼稚園との聯絡

前月號に倉橋先生が「幼稚園と小學校の聯絡」について述べて居る。その中「小學校の教育に有効に役立てて頂き度い點の最たるものは幼稚園に於いての幼児の性格の圓滿な陶冶を、この幼児の性格の「正しき通告」であらうと私は考へる。一朝一夕にして出来上り得べくもない正しい性格

の陶冶に對して、その子を愛する幼稚園の保育者、その兒等を鍛へる國民初等教育者が、相共に手を取り合つて進む事が如何に必要缺くべからざる點であるかを痛感されるのは倉橋先生のみではないと思ふのである。國民初等教育のスタートは先づ幼稚園の形式を取り入れ、子供の遊びを通して遊びの中に性格を陶冶しつゝ、團體協同的な規律訓練を爲し、各教科教育を施して行く事から始めるのは、今日一般の狀況であらうと思ふ。この形式を所謂綜合教授なりとして非難したり又は無反省に迎合して綜合の爲めに綜合したり等する道はづれは多少あらうとも、幼稚園の形式を良く取り入れて、小學校への轉移を圓滑に計る事は必然の教育形態であると思ふのである。

二、兒等の生活そのもの充實より言つて

小學校の教育は中學校の入學準備でも無ければ、子供達がやがて大人になつた時に必要な準備を整へるものでもない。子供の現在の生活を、日本の子供の生活として充分意義づける事自身が目的である。餘り常識的な事に走り過ぎたが、幼稚園もこれと同様の事が言へるのであらうと思ふ。幼児の生活それ自身を充實させ豊富にする爲めに、小學校経験よりの所感として申し述べて見る。

(イ) 音楽及び遊戯について

不幸私にはこの方面の修養が無いだけにその必要を痛感

し意義を強調する次第である。私の擔任した子供達は一週間の中教科内で體鍊科として四時間、音楽として二時間、教科外では始業前、運動時、中食後少くも毎日一時間づつ合計週十二三時間はこの方面の教育を受けて居るのである。けれどもまだこの方面の時間が足りない。言ひ換へればもつ／＼遊ばせ歌はせ遊戯させてやりたいと思ふ心で一つばいである。子供達の健康、體位の向上より言つても尙更大切であると共に情操の陶冶、鍛鍊の徹底より言つても殊に肝要であると思ふ。

けれども此の兒等を天真爛漫にするこの音楽・遊戯に對して、國民體位の向上をも根柢とした國民學校制では第一學年に音楽體鍊として週四時間しか充當して居ないのであるが、たつた四時間で遂げねばならない小學校側としては、教育の一貫、連續的發展といふ立場より言つても、勢ひ幼稚園に於いては、更に子供達に適するこの律動的遊戯の強調を要求したいと思へるのは豈私のみではないだらうと思ふ。

歌ひ得ない子供達、リズムを教はらない兒童、動く事を奪はれた子供程、みじめなものはあるまいと思ふ。明快に歌ひ嬉々として遊戯するところに天真爛漫の芽が培はれ育てられて行くものと思ふ。

(ロ)「手技」に「大人の型」

保育項目中の手技にどんな内容が有るのかよく知らない。けれども私の兒童を通じて、彼等がその幼兒時代に愉快に造り面白く描き、存分にいちづつて來た事にはむしろ驚嘆してゐるのである。そして所謂よく出来る子供程、造形描畫等による發表の巧みである事、作業に學科成績との相關の甚だ大である事を痛感してゐるのである。けれども作業能力の拙劣な子供に限つて容易に手を出して造らうしない場合に屢々出會つたのであるが、その原因の大部分をなすものは、その子供の技能の未熟といふ事よりも、むしろ幼稚園の保育の鄭重さが禍ひをなしてゐる事を知つて驚いたのである。幼兒は何もしないで、保姆の先生の紙を折り缺で切り抜き糊付けをされるのを見守つて居て、最後に指示される紙の位置に押し附ければよい。そして糊が乾けばそれを家に持つて歸つて、自分が造つた如く親達に見せて賞讃を得ればよい。といふ様な極端な例さへ有る様である。もつとも私立の幼稚園では時にこんな行き過ぎをして居るところが有るかも知れないと思ふが、私達自身の教育でも反省を要する點であらうと自戒してゐるのである。外見はたゞへぎんなのでも造る過程を心から楽しみ、描く間に色々な陶冶が成されて居る事を尊い教育であると思ふのである。私はこれを絶えず參觀人を引き受け

る私達の教育に對する天の聲として聞くと共に、私の教育でも出来上つた外見「大人の型」に執らはれる事のない様にせねばならないと常に心掛けてゐる。子供の繪を見てつづく思ふ事は、如何なる世界的の藝術家が模しても兒等の作品には遠く及ばない、といふ點である。私は絶えずこれを忘れない様に努めてゐる。更に來年度より實施の國民學校制では藝能科の圖書及び作業として週二時間しか配當して居ない事である。二時間の時間内で子供達の思ふ存分な描く事造る事がその位出来るかと思へざるを得ないのであるが、小學校ではこれを二時間として置いて他には十九時間配當して重要な國民的基礎練成が遂げられねばならないのである。私は本年度一週作業二時間、圖書二時間、他にこの方面に使ひ得る時間を二時間故に計週五六時間位は手技に相當するものに使つたのであるが、それでもこれ等の手技そのものは申すに及ばずそれに含まれる教科發展はまだ／＼充分とは言はれないと思へて居る。小學校の準備ではないが、幼稚園兒そのものが、ぬり繪を好み、造形に纏ふ事より言つてこの方面の保育について順次發展的に企圖せられて、情操・思想の豊饒を圖られると共に、それを小學校の方へも圓滑に進めて頂いて、作業重視によつて知行合一の態度行動人を練成する方向への生きた力を爲したいと希望して止まないものである。

(八)「讀み物」を「數へる事」
近時街頭に子供讀物の進出の著しい事にむしろ驚いてゐるのであるが、これは私が近頃この方面に興味を持つたせいかも知れない。けれども擔任した子供達を通して感ずる點は、小學校に入學せざる以前から兒等は既に濫讀の傾向があり、書物を尊ぶ精神は乏しく一の商品として見たり遊びの木片と同等視してゐる點である。親達が子供の利口さを自負したいが故に文字を教へ過ぎたり徒らに多量の讀物を與へる事が有るならば警戒を要すると思ふ。小學校の國語の指導に於いて精神の伴つた言語を教へ様してもかへつて今迄の感銘の伴はない空虚な知識の生かじりが邪魔になつてよくその作用に徹し得ない折に屢々出合つたのは私のみではあるまいと思ふ。その上浮薄に書物をのみあさつて一回目を通したのものには、深く讀む事が出来なくなつたり、時間の見境ひなく規律なく興味に引かれて讀みふける傾向となり、それが粗悪な雑本であれば更に害も甚だしいのである。この青白きインテリの雛型といふことは勿論小學校で考ふべき事であり、注意を要する事ではあるが、都會に於いては既に幼稚園時代にその萌しの多分に有る事を私の擔任の子供達について辛い經驗をしたが故に、幼稚園より注意をして頂ければ幸ひと思ふのである。小さい事ではあるが私は子供達に修身書を出し入れする時は必ず兩

手にて捧持して謹んで拜させる事を行はせてゐる。

「青少年學徒ニ賜ハリタル詔書」の謹寫を貼附してあるからである。これと似た精神が生活の中の書物に對しても現れる事を願つてゐる譯なのである。

「讀む事」の或る子供に過ぎたるが故にかへつて國語の指導に困惑を感じた私は、更らに或る子供に「數へる事」の觀念の乏しい事によつて一層の困難を感じたのである。同じく一年生とは言ふがその數へる事の程度の差は一、二ヶ年では無い程に離れて居たからである。讀む事は開きが有つても差は寡い。それは街に「讀み物」が溢れてゐて、知らず識らずの間に大體の足並みが揃ふからであらう。が所謂「數へ物」こそ稱すべき部面が生活や街頭に充満しては居るが、それは「讀み物」の性質を異にして、容易に近づき得るが、一面それに眼を向けぬ時には、少しも收得されぬが、又近づかせ得ないで放任の形に終つても、そんなに物足りなさを感じないからである。繪本讀み物によつて思想語彙を豊富にする事以上、兎角忘却され勝ちな「數へる事」の指導・數觀念・空間觀念の補導に一層の注意を向ける必要があると思ふ。小學算術の上巻が一冊の繪本の様で親しみ易いがあるのみでは所謂兵法のない軍團であるし、更にあれ以前の數量生活の指導によつて更らに大切な具體的な基礎力を積み重ねられる事が一層望ましいのである。

より熱烈なる兒等の教育を願ふの餘り、種々な幼稚園より承け繼いだ三十三名の教育を反省するに共に、家庭教育幼稚園教育の御參考したいと考へ筆を擱く。

(十五、三、十五)

石^{いし}激^{たぎ}る垂水の上の早^{はや}蒼^{そう}の萌^もえ出^いづる春^{はる}になりに
けるかも

春^{はる}の野^のに葦^{あし}採^とみにと來^こし吾^{われ}ぞ野^のをなつかしみ一
夜^よ宿^{とど}にける

春^{はる}霞^がながるるなべに青^{あお}柳^{りゅう}の枝^{えだ}くひもちて鶯^{うす}鳴^なく
も